

天下三分の宣誓書 全文（翻刻）

高畠君ニ対シ、先日御コン書ヲ以テ戦争ニ依ル英米財界ノ変セン報導セラレ、是ガ吾人ノホラ袋ノ一部ト成リシヲ感謝ス。尚、如斯一般的ノ報告ヲ與ヘラル、トトモニ専門的、仮令ハ豆ガ戦争ノ為ドウナルトカ、戦後樟の□ノ需用ガドウナルトカ斯フナ

（ウ）か

ルトカ言フ様ナ報告ヲモ給ハラン事ヲ望む。

即、一般的報道モ頗ル必要ニハ相違ナキモ、當店ノ取扱ニ係ルモノ乃至日本ノ商賣ニ干係アル砂糖、米、豆、石炭、船、樟脑、薄荷等ノ部分的商品ニ對スル戦争ノ影響、戦前戦後需用ノ変遷等ノ報告ガより以上必要ナリト言フニ在リ。蓋シ、戦争が終局ニ進ムニ隨ヒ弥々益々必要感スルモノト御承知ヲ乞フ。小川君ノ増員ヲ行フモ又ロンドン出張所ニ如斯余裕ヲ與ヘン欲スルニ外ナラズ、今小生が聞カントスル所ヲ左ニ指録セバ、船泊ノ黄金時代戦後マデ継続スルモノトセバ凡何時迄継続スベキ哉。戦後運賃界ハ如何ニ成行ベキ乎。

砂糖ノ商況ハ戦後如何ニ成行ベキ乎。戦後ニ於ケル需用供給ノ状態如何。

其他米、豆、豆油、魚油、樟の、薄荷、銅、錫、亜鉛、鉛等ニ就キ現在ノ状況及戦後ニ於ケル需用供給変遷ノ見込等。

又英米ニ於ケル鉄ノ供給ハ戦局ノ如何ニ拘ラス継続シ得ラルルヤ。戦後ニ於ケル需用供給ノ見込如何。

労銀が戦争前ト今日ト何程ノ差ヲ生ジタルヤ。又戦後労銀ノ見込如何。

造船費用ハ戦前ト今日ト又何程ノ差アリヤ。戦後ハ如何ニ成行ベキ乎。

英國ニ於ケル戰前ト今日トヲ比較セル物価表ヲ送ラレタシ。但シ指數ニ依ルモノニテハ馱目也。即、各種商品ノ高低表ヲ見テ今日迄未ダ心付カザリシ金儲ケノ材料ヲ得ントスルニアレバナリ。英國如何ニ富タリト虽モ、今日ノ如キ大戰ヲ永クヤルトキハ結極不換紙幣ヲ發行スルニ至ラン。是吾人ノ最モ恐ル所、此点ニ深ク注意セラレン事ヲ切望ス。

戰爭ノ為メ英國ノ商業ハ地方的ニ成ツ、在リ。佛米二人ヲ派遣スルノ要ナキ乎。

今後ハ日本米ト豆ノ輸出ヲ盛大ニヤラント欲ス。昨年ノ例ニ依ルトキハ米ハ満足スベキ商賣ヲ為シタルモ豆ハ甚タ不充分ナリシ。大ニ協力セラレン事ヲ望ム。豆及豆油ノ商賣ハ當地ノ小寺頗ル優勢ナリ。豆油ノ如キ鈴木商店ノ輸出ハ多數ノ場合ニテ一回壺、貳万箱に過キザルモ、小寺ノ場合ハ豆油ノ滿船商賣積ヲ為ス事珍シカラザルヲ以テ甚ダ羨望ニ堪ヘス。或ハ云、コンサイメントヲ為ス故如斯多額ノ積出ヲヤルモノ也ト。果テ然ルトキ、何等浦山敷事ナシト虽モ、若、然ラザル時ハ商人ノ大恥辱ナルヲ以テ一片ノ御調査ヲ乞フ。

豆モ又現在ノ取引先ニテハ不十分ニシテ當地大連ニテ意ノ如ク活動出来ザルヲ覺ユ。是モ又特別ノ注意ヲ払ハレン事ヲ依嘱ス。

當方ニテハ銅、亜鉛、鉛等ノ製煉事業ヲ開始シタル甚ダ好結果也。即、銅ハ支那ノ古錢其他古金類ヲ分解、亜鉛ト銅ヲ得ルニ在リ。亜鉛ハロシヤト濠州ヨリ鐵礦石ヲ取ヨセ是ヲ製煉シツ、在リ。此事業ニ対シモ有益ナル報告ト知シキヲ與ヘラレン事ヲ望ム。船泊、先の帝国丸ハ他ニ賣却（明年七月六十五万円ニテ）セリ。続テ報國丸モ又賣ラントス。其換リニ一万屯ノ船二ツ、五千屯一ツト三千トン一ツ、今新造中也。

一番早キ分ニテ來年八月ニ出來ル。

小川君持參ノ砲弾ハ、ロシヤノ註文ニテ數ヶ月後ヨリ製造スル予定也。

貴地ニテモ佛國其他ヨリ註文ヲ得ベシ。代價ハ一個十八円ナリ。高ケレバカンダーフワーフ望む。其他此程ノ軍需品日本ニテ出来ルモノハ註文ヲ取ル事甚ダ面白カルベシ。是佛國二人ヲ派スル必要アランカト考フ所謂也。

今、當店ノ為ス計画ハ凡テ満点ノ成績ニテ進ミツツ在リ。御互ニ商人トシテ此大亂ノ真中ニ生レ、而モ世界商業ニ干係セル仕事ニ從事得ルハ無上ノ光榮トセザルヲ得ス。即、此戰乱ノ変遷ヲ利用シ大儲ケヲ為シ、三井三菱ヲアツ倒スル乎、然ラザルモ彼等ト並、デ天下ヲ三分スル乎、是鈴木商店全員ノ理想トスル所也。小生共是ガ為メ生命ヲ五年ヤ十年早クスル、縮小スルモ更ニイトフ所ニアラズ。要ハ成功如何ニ在リト考ヘ日々フン戦罷在リ。恐ラクハ独乙ノ天子様デモ小生程働キ居ラザルベシト自任シ居ル所也。

ロンドンの諸君協力ヲ切望す。小生が須磨ノ自宅ニ於テ出勤前此書ヲ認ムルハ、日本海戰ニ於ケル東郷大將が彼ノ帝国ノ興廢此一挙ニ在リト信号シタルト同一ノ心持也。

十一月一日

須磨自宅

二テ

金子 直吉

高畠 君

小林 君

小川 君

天下三分の宣誓書 全文（書き下し文）

高畠君に対し、先日御懇書^{こんしょ}を以て戦争に依る英米財界の変遷（を）報導せられ、是が吾人の法螺袋^{ほらぶくろ}の一部と成りしを感謝す。尚、如斯^{かくのごとき}一般的の報告を與へらるるとと

（ウ）か

もに専門的、仮令^{たとえ}ば豆が戦争の為どうなるとか、戦後樟の口（脳）の需用がどうなるとか斯^こふなるとか言ふ様な報告をも給はらん事を望む。

即ち、一般的報道も頗る必要には相違なきも、當店の取扱に係るもの乃至日本の商賣に干係^{かんけい}ある砂糖、米、豆、石炭、船、樟脑、薄荷等の部分的商品に対する戦争の影響、戦前戦後需用の変遷等の報告がより以上必要なりと言ふに在り。蓋^{けだ}し、戦争が終局に進むに隨^{したが}ひ弥々益々必要（を）感ずるものと御承知を乞ふ。小川君の増員を行ふも又ロンドン出張所に如斯余裕を與へん（と）欲するに外ならず、今小生が聞かんとする所を左に指録^{しろく}せば、船泊の黄金時代（が）戦後まで継続するものとせば凡そ何時迄継続すべき哉。戦後運賃界は如何に成行べき乎。

砂糖の商況は戦後如何に成行べき乎。戦後に於ける需用供給の状態如何。

其の他米、豆、豆油、魚油、樟の（脳）、薄荷、銅、錫、亜鉛、鉛等に就き現在の状況及び戦後に於ける需用供給変遷の見込等。

又英米に於ける鉄の供給は戦局の如何に拘らず継続し得らるるや。戦後に於ける需用供給の見込如何。

労銀が戦争前と今日と何程の差を生じたるや。又戦後労銀の見込如何。

造船費用は戦前と今日と又何程の差ありや。戦後は如何に成行べき乎。

英國に於ける戰前と今日とを比較せる物価表を送られだし。但し指數に依るものにては駄目也。即ち、各種商品の高低表を見て今日迄未だ心付かざりし金儲けの材料を得んとするにあればなり。英國如何に富たりと虽も、今日の如き大戰を永くやる時は結極不換紙幣を發行するに至らん。是吾人の最も恐るる所、此の点に深く注意せらるん事を切望す。

戰争の為め英國の商業は地方的に成りつつ在り。佛米に人を派遣するの要なき乎。

今後は日本米と豆の輸出を盛大にやらんと欲す。昨年の例に依る時は米は満足すべき商賣を為したるも豆は甚だ不充分なりし。大いに協力せられん事を望む。豆及び豆油の商賣は當地の小寺頗る優勢なり。豆油の如き鈴木商店の輸出は多數の場合にて一回壱、弐万箱に過ぎざるも、小寺の場合は豆油の満船商賣積（満船積商賣）を為す事珍しからざるを以て甚だ羨望に堪へず。或いは云ふ、コンサインメントを為す故如斯多額の積出をやるもの也と。果して然る時、何等浦山敷事うらやましきなしと虽も、若し、然らざる時は商人の大恥辱なるを以て一片の御調査を乞ふ。

豆も又現在の取引先にては不十分にして當地大連にて意の如く活動出来ざるを覺ゆ。是も又特別の注意を払はれん事を依嘱す。

當方にては銅、亜鉛、鉛等の製煉事業を開始したる甚だ好結果也。即ち、銅は支那の古錢其の他古金類を分解、亜鉛と銅を得るに在り。亜鉛はロシヤと濠州より鐵鑛石かわを取よせ是を製煉しつつ在り。此の事業に対し（て）も有益なる報告と知識を與へられん事を望む。船泊、先の帝國丸は他に賣却（明年七月六十五万円にて）せり。続いて報國丸も又賣らんとす。其の換りに一万屯の船二つ、五千屯一つと三千トン一つ、今新造中也。一番早き分にて来年八月に出来る。

小川君持参の砲弾は、ロシヤの註文にて數ヶ月後より製造する予定也。

貴地にても佛國其の他より註文を得べし。代價は一個十八円なり。高ければカンダーラフワー（カウンター オ ファー）を望む。其の他此の程の軍需品日本にて出来るものは註文を取る事甚だ面白かるべし。是佛國に人を派する必要あらんかと考ふ所謂也。

今、當店の為す計画は凡て満点の成績にて進みつつ在り。御互に商人として此の大乱の真中に生れ、而も世界商業に干係せる仕事に従事（し）得るは無上の光榮とせざるを得ず。即ち、此の戦乱の変遷を利用し大儲けを為し、三井三菱を圧倒する乎、然らざるも彼等と並んで天下を三分する乎、是鈴木商店全員の理想とする所也。小生共是が為め生命を五年や十年早くする、縮小するも更に厭^{まか}ふ所にあらず。要は成功如何に在りと考へ日々奮戰罷^{いと}り在り。恐らくは独乙の天子様でも小生程働き居らざるべしと自任し居る所也。

ロンドンの諸君協力を切望す。小生が須磨の自宅に於て出勤前此の書を認むるは、日本海戦に於ける東郷大将が彼の帝国の興廃此の一擧に在りと信号したると同一の心持也。

十一月一日

須磨自宅

二テ

金子 直吉

高畠 君

小川 君